



学校だより

横浜市立朝比奈小学校

令和6年1月30日

第10号



～スポーツに想いを寄せて～

校長 大野 幸二

2024年(令和6年)、新しい年が明け、早くも一か月が過ぎようとしています。スポーツ界では、正月の第100回箱根駅伝を皮切りにサッカーやラグビー、バスケットボール等々、様々なスポーツが新春をにぎわせています。

朝比奈小学校では、1月26日(金)に全校で「長なわ集会」を実施しました。長なわも駅伝や球技と同じくチームスポーツです。跳び手と回し手のタイミングを合わせたり、クラスみんなで声や跳び方を揃えたりすることが大切です。

たかがスポーツ、されどスポーツ。

「サッカーは少年を紳士に育て、大人を子どもに変える。」という諺があります。また、ラグビーの試合後に勝敗の結果や敵味方関係なく互いの健闘を深く称え合う「ノーサイド」の精神、「一人はみんなのために、みんなは一人のために」といったチームスポーツの大切さを唱えたスローガンも有名です。

今もっている力でベストを尽くせ。

今年の7月には、四年に一度の祭典であるオリンピック・パラリンピックが、フランスのパリで開催されます。参加選手の男女比が50:50になることはオリンピック史上初だそうです。

「失われたものを求めるな。」「今もっている力でベストを尽くせ」この言葉は、パラリンピックの理念であり、勇気や強い意志を表す言葉の一つでもあります。パラリンピアンという特別なアスリートだけに当てはまる言葉ではなく、全ての人々に通じるユニバーサルな素晴らしい言葉です。

生涯スポーツの理念

私がスポーツを通して朝比奈小学校の子どもたちに伝えたいことは、「勝った時より、負けた時の方が学ぶことは多い」ということです。スポーツは、見ている者に「努力をすれば夢が叶う」というすばらしさを教えてくれます。同時に「努力をしても報われないことがある」という勝負の厳しさ、人生のはかなさも学ぶことができます。それでも、「あきらめず、次に向かって努力することの大切さ」を観ている子どもたちが感じとり、実践してほしいと切に願います。また、勝者の陰には必ず敗者がいます。華やかな勝者を称賛するだけでなく、努力を積み重ねても負けてしまった者や苦しい状況にある者にも想いを馳せる。そんなユニバーサルな視点で生涯スポーツに取り組んでほしいと思います。

令和5年度の教育活動も残り3か月となりました。4月からは、それぞれの児童が新たな学年で新たな教師や友達とスタートします。学校関係者の皆様のご支援を頂戴しながら、「創立50周年」の朝比奈小学校を地域とともに創り上げて参ります。変わらぬご支援の程、宜しくお願い申し上げます